

川西町が目指す子育て環境

川西町

川西町ではコンパクトシティの利点を生かし、住民・行政・地域の関係を顔の見える近い・相談のしやすい丁寧な子育て環境作りに取り組んでいます。地域全体で見守れる、孤立・切れ目の無い継続した子育て支援環境により「子どもの笑顔があふれるまち」川西町を目指しています。

1 基本データ <県記載>

- ・順位は県内市町村の降順
- ・カッコ書きは県全体の数値

①人口増減率（H11年4月～H30年12月・約20年間）					
増減率	順位	うち自然増減		うち社会増減	
		増減率	順位	増減率	順位
▲12.0% (▲6.2%)	16位	▲5.1% (▲2.1%)	15位	▲7.0% (▲4.1%)	16位
②合計特殊出生率			③有配偶出生率		
H20～24年（年率）	順位	対H15～19年（年率）増減	（15～49歳女性有配偶者1,000人あたりの出生数）		
			H27年	順位	
1.23 (1.29)	25位	+0.01 (+0.06)	77.4 (74.4)	8位	
④出生数（人）		⑤年少人口割合（15歳未満）			
H30年	H30年10月	順位	対25年10月増減		
40 (8,947)	11.8% (12.0%)	12位	▲0.4%ポイント (▲0.7%ポイント)		
⑥子育て世代割合（25～44歳）					
H30年10月	順位	対25年10月増減			
20.6% (20.7%)	14位	▲2.8%ポイント (▲3.8%ポイント)			

2 子育て家庭の現状と支援に関する課題

- ① 子育て家庭の核家族化が進み、地域との関わりが希薄化する中、子育てに関する知識不足や不安軽減の取組に参加してもらえない家庭へのアプローチが難しい。
- ② 行政としては、専門職確保や財政負担の困難さ。また小さな町では国庫補助の基準と合わない。
- ③ 事業評価方法。費用対効果や第三者の視点。

3 子育て家庭への支援に関する基本的な考え方（目指していること）

- ① 地域の特性に応じ、「専門的な知見」と「当事者目線」の両方の視点を活かし、必要な情報を共有して、切れ目なく支援すること。
- ② どの相談窓口においても、妊産婦、子育て家庭の個別ニーズを把握した上で、情報提供、相談支援を行い、必要なサービスを円滑

に利用できるよう、きめ細かく支援すること。

- ③ 地域の様々な関係機関とのネットワークを構築し、必要に応じ社会資源の開発等を行うこと。

4 子育て家庭への支援に関する特徴的な取組

- ① 母子手帳交付時の面談（**妊娠期支援プラン**）・全戸妊婦訪問（**オリジナル育児指導物品プレゼント**）・全戸赤ちゃん訪問（**乳児期支援プラン**・**タオルプレゼント**）・希望される家庭に1歳バースデイ訪問（**幼児期支援計画**）等により切れ目ない支援・孤立や不安の解消と虐待予防に取り組んでいる。またプレゼントは子育て家庭に喜んでいただく事と職員が訪問しやすくなる事を意識した。
- ② 川西町の子育てに関係する職員が集まったの学習会を行い、職員のレベルアップと情報の共有化、行政の縦割り解消に取り組み、その成果として「子育て支援ハンドブック」を作成し、妊婦訪問時に手渡して川西町の子育て支援を詳しく説明している。
- ③ オリジナル（母乳相談等費用助成・食育の取組）や丁寧（子育て支援センターのめばえ広場へのお誘いは、0～3歳児を中心にお宅を訪問して顔をみて勧誘や説明を実施）を意識した取組。

5 多様な主体による子育て支援の取組

川西町の子育て支援の取組は、保健センター・子育て支援センターが中心に取り組んでいる。子育て支援センターでの取組には、地域のボランティアグループとの交流（ハンドベル・お話・オペラ等）や高齢の方々との世代間交流を意識した取組も行っている。代表的象徴的な取組として、夏のひだまり交流会には、子育て家庭と町長・町職員・民生児童委員・幼稚園の先生・地域の方が一緒に流しそうめん等を楽しみ距離を縮めている。